

世代間連携で乗り越える「地域スマホセンター タケヤマ」

現代社会が抱える3つの課題を3本の軸から解決する

- ①コロナ禍における若者の雇用減
- ②独居老人増加による孤独死のリスク高
- ③近所づきあいの希薄化・地域社会の喪失



サービス創発の起点として、病院が軸となり、保健医療を中心とした地域コミュニティの再構築に取り組む緑区竹山団地をフィールドにアイデアを実装します

(1) コミュニティ・ナースの育成

- ・ 医師や看護師が中心となり、高齢者に対し寄り添い型のケアを行う
- ・ 大学生や専門学校生を中心に、コミュニティ・ナースを育成する
- ・ 高齢者が簡単に助けを求められるようにする

(2) 「地域スマホセンター」の運営

- ・ ICTを通じて、若者と高齢者が交流を図る
- ・ コミュニティ・ナースが中心となり団地の商店街の空き店舗などを活用
- ・ オンライン交流プログラムを実施

コミュニティ・ナース

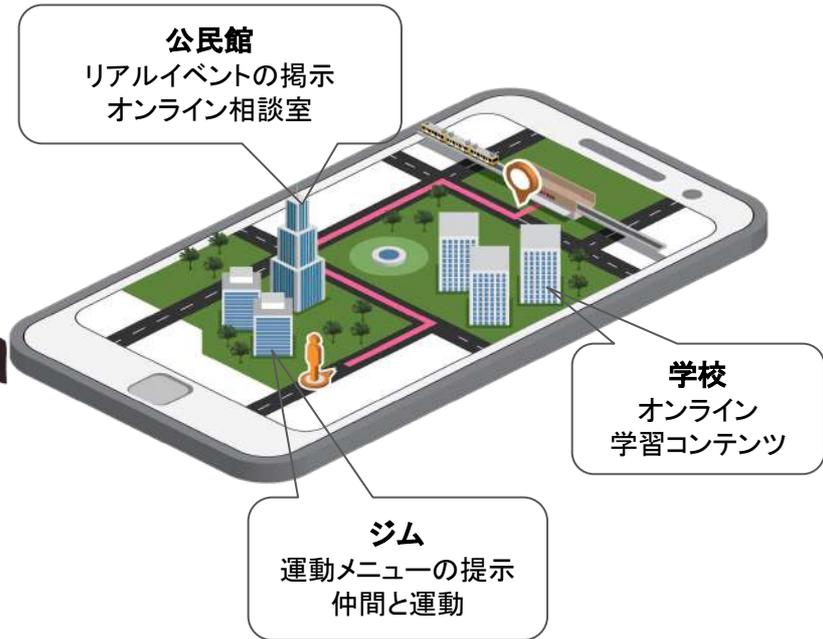
- ・ 『人とつながり、まちを元気にする』存在
- ・ 身近な存在として『毎日の嬉しいや楽しい』を一緒につくり、『心と身体の健康と安心』をプロモーションする
- ・ 職業、資格ではない



(3) 「ゲーミングプラットフォーム」「まちづくりゲーム」の構築・開発

- ・ オンラインゲームを通じて多世代が地域コミュニティを形成する「ゲーミングプラットフォーム」の構築
- ・ 現実の地図とバーチャル上の地図を連動させたまちづくりゲームの開発

ゲーム上のマップ(建物の位置や地理が現実と同じ)



実現までの流れ

2020年11月～12月

恵生会竹山病院とリビングサポートオフィス、横浜市政策局との事業内容についての協議・調整

2021年1月

「竹山未来先取り倶楽部」を中心とする竹山地区住民の方々と提案内容についての話し合い

2021年2月～

「コミュニティ・ナースの育成」、「地域スマホセンターの運営」の実装化への協力

2021年4月～

「ゲーミングプラットフォーム」の構築及びまちづくりゲームの開発

本政策により、課題解決と同時に期待できる要素

1. 地域活動にあまり参加しない中高生や若者を巻き込み、幅広い世代に**地域活動の重要性を認知**
2. 高齢者の**生きる目的**を創造し、健康寿命を上げる

対象地域: 横浜市

テーマ:

「新型コロナを乗り越えるための大都市における新しい生活様式」

チーム: フェリス地域コミュニティ研究会

メンバー: 矢ヶ崎里沙、米屋美雪